

アグリ・ゲノム研究の総合的な推進

【 3 , 2 3 9 (2 , 3 0 4) 百万円】

対策のポイント

ゲノム研究等の革新的技術を活用し、国民生活の向上やグローバル化に対応した農林水産業等の発展に直結する研究開発に重点的に取り組みます。

(革新的技術を生み出す様々な研究分野)

- ・ カイコはふ化から 25 日間で体重が **1 万倍**になり、物質を生産する生物工場に適しています。
- ・ ブタは食欲旺盛で飲酒も好み、臓器の大きさもヒトに近いので、肥満等の**生活習慣病の研究モデル**として最適です。
- ・ 普通の作物なら収穫が大幅に低下するような干害でも収量が確保できます。

政策目標

医療研究用モデルブタを5年後に作出
ゲノム情報を活用して、食用ダイズ国産100%自給に貢献
不良環境に強いコムギ等を5年後に作出

< 内容 >

1 . 新需要の創造に向けた研究推進

遺伝子組換えカイコを利用した医薬品や機能性繊維の**大量生産技術の開発**、ヒトの**医療研究用モデル**として利用可能な動脈硬化等生活習慣病のブタの開発等を行い、昆虫・家畜を活用した**新産業の創出**に貢献します。

2 . 食料生産技術の革新に向けた研究推進

イネゲノム情報を用いた有用遺伝子の機能解明を進めるとともに、この情報を利用して迅速な優良品種の育成を行います。

また、イネゲノム研究で蓄積したノウハウを利用して、ダイズについてゲノム情報を用いた有用遺伝子の機能解明やDNAマーカーの開発を行い、実需者や生産現場のニーズが強い**安定多収を実現するダイズ新品種**の開発を加速化します。

3 . 世界の食料需給の安定に向けた研究推進

乾燥、塩害等の**不良環境下でも減収を回避する DREB 遺伝子等**を導入したコムギ等を開発し、国際的な優良品種の流通を促すことにより、世界の穀物需給の安定化に貢献します。

< 実施主体 > 独立行政法人、大学、民間企業等

< 実施期間 > 平成19年度～平成23年度

（ 担当課：農林水産技術会議事務局先端産業技術研究課、国際研究課
（ 0 3 - 3 5 0 2 - 3 9 1 9 (直)、0 3 - 3 5 0 2 - 3 9 1 8 (直)) ）